

平成25年1月元日

会員各位

協会だよりー241(1月号)

JCRA(Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

2013年年頭の挨拶

新年あけましておめでとうございます。

会員各社の皆様並びに関係各位におかれましては、ご家族と
もども良い新年をお迎えになられたこと心からお喜び申し上げ
ます。

さて昨年は、震災からの復興が力強く進み、日本経済も回復
基調に乗ってくるものとの期待もありました。残念ながら、欧
米の景気の低迷はさらに長引き、中国経済の過熱抑制等による
先行き不透明感も漂い、世界経済全体では回復どころか、低迷
の度を増してきたといつて過言ではないような状況になりました。
こうした中、我が国産業界は、グローバル化への対応の遅
れ、サプライチェーンの変化、円超のつく円高の継続、原発問
題等による電力の不足や値上げといったことから、特に電子電気業界を中心として、競争
力を大幅に失い、事業構造の変革を余儀なくされました。加えて、政治は迷走をし、領土
問題に端を発した中国や韓国との関係悪化による経済への影響を含め、本年後半は、リー
マンショック後の状況に匹敵するあるいは、それ以上の厳しい環境になりました。



触媒資源化協会
会長 大藤俊洋 *

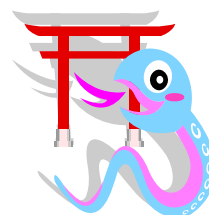
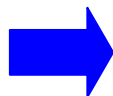
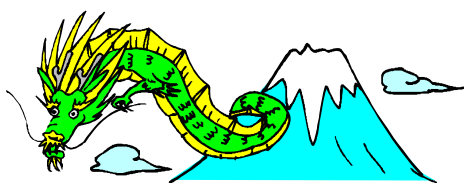
さて、今年はどうなるか。昨年末に、政治体制も変わり、日本経済の再生、円高是正、
デフレ脱却といった経済対策を前面に掲げ、取り組もうとしています。中国等との関係も
修復できるチャンスでもあります。これらに大いに期待したいところであります。
しかしながら、グローバル化時代において、これからもこのような大きな変化は起きると
みておかなければなりません。国や地域相互の関係もより親密に複雑になっていますし、
互いに影響度が増しています。製品・商品についても、例えば、自動車が、ハイブリッド
や電気自動車になるように、あるいは携帯電話がスマートフォンに変わっていくように変
化は、色々なところで起きており、なかなか明確に予測できなくなってきました。
ただ、少なくとも、環境意識の高まりや、レアアース問題等で、資源有効活用つまり「循
環」としてリサイクルに対するニーズは一層強まり、今後とも少々の景気変動では変わる
ものではないと思われます。

我が国は「モノづくり」あるいは「高品質の素材、部品」という点では世界に冠たる実績と評価があります。ハイブリッド自動車等の次世代の製品は日本が世界を引っ張るという構造になってきていますし、スマートフォンなどの重要な部品の多くは、日本が供給しています。しかし、一方で汎用品製造や組み立ては海外への事業シフトが依然進んでいますし、消費も、アジアを中心に伸びています。国内と海外の事業をどううまく繋げ、組み合わせるかが今まで以上に問われる年となりそうです。

今年は巳年です。巳は「復活、再生」を連想させ、金運にご利益があるとされています。また、今まで蒔いた種が、巳（実）を結ぶ年でもあるといわれています。「資源循環」という大義を背に、変化を確実に捉え、皆で研鑽、協力しながら一步一步前に進んで参りたいと思います。幸い本協会の会員数は、昨年43社になりましたが、今年もさらに増える見込みであります。私どもの取り組みが着実に拡がりを見せていると考えております。つきましては、ご当局並びに関係諸団体の皆様方には一層のご支援、ご指導を改めてお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員各社の益々の発展と、関係各位並びにご家族のご多幸、ご健勝を祈念いたしまして、新年の御挨拶といたします

※ J X 日鉱日石金属㈱ 取締役 副社長執行役員 環境リサイクル事業本部長



年賀有難うございます（敬称略）。

- 株式会社アサカ理研
- 株式会社大島産業
- ジョンソン・マッセイ・ジャパン合同会社
- ソーラメタル株式会社
- 泰和株式会社
- 東京化学開発株式会社
- 日本無機化学工業株式会社
- 松田産業株式会社
- ミヤマ株式会社
- 横浜金属株式会社
- 神鋼リサーチ株式会社
- 安田薬品株式会社

トピックス

- 第216回月例会(講演会・新年会)の開催
日時：平成25年2月6日(水)15時より
場所：JXグループ六本木クラブ
- 第27回JSCRA会は「大洗ゴルフ倶楽部」での開催準備中。開催日の第一候補は4月5日(金)、第二候補は4月12日(金)です。決定次第ご連絡します。



- 一. 協会よりのお知らせ
【実施済事項】
- 二. 寄贈本の紹介
- 三. シンポジウムの案内(環境資源工学会)
- 四. 事務局より(一月度の予定)
- 五. 【雑学】おくのほそ道ツアー九ー一

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① 協会だよりー240(12月号)をメール&郵便で送信(12/1)
- ② 平成24年度(1/1～12/31)触媒資源化実績の報告依頼(12/14)

【予定事項】

- ① 第五回運営委員会
日時：平成25年1月17日(木)15:30～17:00
場所：堺化学工業㈱会議室
議題：第216回月例会の準備、その他
出席：運営委員、第216回月例会幹事、事務局

2. 寄贈本の紹介

第7代会長であった清水進(田中貴金属工業㈱OB)様より共著書の寄贈がありました。清水様のお手紙の一部をご紹介しますと(・・・さて同封いたした『簡明化技術が地球を救う』は“ものづくりの哲学”として“技術は人のためにある”という原点に立ち戻り、現状を見直そうという視点で、それぞれの立場、分野の異なる多面的な考え方を纏めたものです。・・・これまで“ものづくり”の多くは売る側、作る側の論理で技術開発が行われ、次から次へと新しい機能を付加して、購買意欲をそそり、使い終わったら廃棄し消費は美德などとうそぶいた時代がありました。しかし3.11東日本大震災以降、エネルギー、資源、環境を含めものづくりに対する日本人の意識は激変しています。・・・)とあり

ます。清水様は第二章 プラチナ・クライシスの執筆をされています。レアメタル資源循環型を目指す当協会会員各位に於かれても、同書は2012年11月26日発行の新刊(1版1刷)ですので、書店にてご購入ご購入をお進めいたします。

● **簡明化技術が地球を救う 簡明技術推進機構編 白日社発行 2100円(税込)**

目次

- ・技術の簡明化こそが 日本と世界を救う・・・柳田博明
- ・第一章 アキバの五十年・・・中田義雄
- ・**第二章 プラチナ・クライシス・・・清水進**
- ・第三章 足元のスーパー・テクノロジー・・・片岡宏文
- ・第四章 親子で楽しむテクノロジー・・・杉田稔
- ・第五章 ネイチャーテクノロジー・・・石田秀輝
- ・第六章 ロボットの未来・・・餌取章男
- ・第七章 安全はタダ?・・・武藤範男
- ・第八章 初めから理科の嫌いな子はいない・・・永井正幸
- ・簡素への回帰

3. シンポジウムの案内(環境資源工学会)

・第26回シンポジウム・レアメタルリサイクルの新展開

日時 平成25年2月21日(木)9:30~17:05

場所 新橋住友ビル大会議室(東京都港区5-11-3)

参加申込 環境資源工学会ホームページ上にて受付(オンライン受付)

URL: <http://www.nacos.com/rpsi/>

申込締切: 平成25年2月7日(木)正午

講演内容の詳細は同学会のホームページをご覧ください。

4. 事務局より(1月の予定)

曜日	月	火	水	木	金	土
1週	12/31	1(元日)	2	3	4	5
	正月休暇(12/29~1/7)					
2週	7	8	9	10	11	12
	×	○	×	×	○	×
3週	14	15	16	17	18	19
	成人の日	○	×	第5回運営	○	×
4週	21	22	23	24	25	26
	×	○	×	×	○	×
5週	28	29	30	31	2/1	2/2
	×	○	×	×	○	×

事務局延べ出勤予定: 8日(○;終日、△;半日、×は休日)。

5. 【雑学】おくのほそ道（9-1）鶴岡、酒田・象潟

前回、湯殿山の拝観を終え山形駅よりつばさで帰京した私たちは、また東京駅より 8:08 発の「つばさ127号」に乗りし山形へ向かいました。

山形駅前にはおなじみの庄内交通の高橋さんがお出迎え、みんなニコニコと早速バスに乗り込みます。バスは一路、鶴岡に向けて月山はながさライン、山形自動車道を一気に進みます。山形自動車道の周りは紅葉真っ盛りです。鶴岡 IC を下りたすぐの場所に、今回最初の昼食場所「庄内観光物産館」があります。午後1時も過ぎ、まずは腹ごしらえが先です。ここには魚市場も併設されているためか昼食は海鮮丼です。さて腹も一杯、目的の鶴岡市の中心に向かいます。



庄内観光物産館（ふるさと本舗）

《鶴岡》

芭蕉さんが訪れた当時は鶴が丘といっており、庄内藩酒井氏十四万石の城下町でした。

芭蕉さんは羽黒の宿坊から凶師呂丸に案内され長山重行亭（鶴岡藩士）に3日間お世話になります。ここ長山亭で芭蕉、曾良、重行の3人で歌仙を巻いた発句が「めづらしや山をいで羽の初茄子」です。この句碑は、長山重行宅跡、致道博物館内、山王日枝神社境内にもあります。

【民田なす】芭蕉も食べた？！

鶴岡の在来野菜の小さい丸なすで、民田地区で作られている。旬の7月・8月にだけ食べられる浅漬は、皮が少しかためパリッとした食感とさっぱりした塩味がたまらない美味しさです。からし漬は、漬物屋やみやげ店で通年販売されています。

・・・・（おくのほそ道歩くマップ）鶴岡版より

（注）筆者も、からし漬を購入しました。ピリッと辛くご飯が進みます。



長山重行宅跡の句碑



山王日枝神社境内の句碑

【致道博物館】

私たちは鶴岡地区の歴史を知るため、まず致道博物館に寄りました。致道とは庄内藩の藩校致道館より名付けられています。この場所は藩主の別邸として建てられ、明治以降は酒井氏の邸宅として使用されていました。1950年郷土文化向上のため鶴岡市に寄付されました。その後郷土博物館として整備され今日に至っています。特に目を引いた建造物は旧西田川郡役所の建物です。明治14年の建造で明治天皇の東北御巡幸の折、鶴岡での行在所として用いられました。他に旧鶴岡警察署庁舎、道路に面して庄内藩主御隠殿赤門があり、また庭園が国指定名勝「酒井氏庭園」として見事に整備されています。



旧西田川郡役所

【庄内藩校致道館】

旧致道館



芭蕉乗船の地(内川大泉橋)

次いで鶴岡城内、当時の三の丸跡に建造された庄内藩校致道館の見学です。現在、鶴岡城址は鶴岡公園と成っています。庄内藩校では荻生徂徠の徂徠学を中心とした教育が行われました。明治以降は鶴岡県庁、鶴岡警察署、学校などに使用されましたが、現在は一部の建物が補修され、他の建築の跡地と共に国指定の史跡となっています。

芭蕉さんが長山重行に別れを告げ、川舟にて酒田へ向け鶴岡を発つ時に乗船した地、内川の大泉橋の船着場は、街の中心地を流れ赤川を経て最上川に通じています。また内川は城の外堀の役目をしていたと言われています。

また鶴岡は藤沢周平の出身地で**市立藤沢周平記念館**があります。一度見学したい場所ですが今回は歴史探訪の旅のためパスです。今日の宿は東京第一ホテル鶴岡です。最上階には大浴場があり、湯につかりゆったり浸かった後の楽しみは食事です。夜半より雷雨になり外出せずにホテル内の食事処で夕食と生ビールで乾杯です。天気回復を祈り、明日は鶴岡に別れを告げ酒田、吹浦に向かいます。夜中に雷雨を伴った嵐も出発する朝には晴れ間も出る天候になり、月山も良く見え気分爽快です。我々の心がけが良いのでしょうか。

《酒 田》

酒田は戦国時代より発展した港町で、西の堺と共に自治組織を持って独立の一面をつくり、その組織である三十六人衆が、後々まで酒田の有力者となっていました。江戸初期に豪商、河村瑞賢が北前舟の西廻り航路を開発してさらに繁盛しました。それを称え、市内日台山公園には瑞賢の銅像も建てられています。



日台山公園より望む旧酒田港(手前)と並行した最上川 (奥)。と河村瑞賢像(右)。



鶴岡より川舟で酒田に着いた芭蕉さんは吹浦、象潟へ向かった帰り道も酒田に泊まり、延べ9泊しています。往復とも酒田の医師・不玉の所に世話になり象潟より戻ったとき、芭蕉、曾良、不玉で三吟歌仙を巻いた発句が「あつみ山や吹浦かけて夕涼み」です。鶴岡より酒田に着いたとき、寺島彦助亭で歌仙を巻き、その発句は「涼しさや海に入れたる最上川」でしたが、おくのほそ道本文では「暑き日を海に入れたる最上川」となっています。

また近江屋玉志亭で芭蕉、曾良、不玉、玉志の4人で巻いた歌仙の発句は「初真桑四にや断ン輪に切ン」でした。

【日台山公園】

日台山公園は文学の散歩道として、芭蕉さんの句碑の他、酒田を訪問した文人・幸田露伴・斎藤茂吉「おほきなる流れとなれば ためらはず 酒田のうみにそそがむとする」、酒田在住の秋沢猛「やわらかく蝙蝠あげぬ港町」等の歌碑、句碑が多く建立されています。

日台山公園入口にある文学の散歩道案内板と公園内の芭蕉像。六角灯台。



酒田市役所の面する本町通りの向かい側、さかた中央福祉プラザの裏には、芭蕉さんがお世話になった不玉亭の跡に石碑が、本通に面して歌仙を巻いた玉志近江屋三郎兵衛宅跡には標柱が立っているのみです。

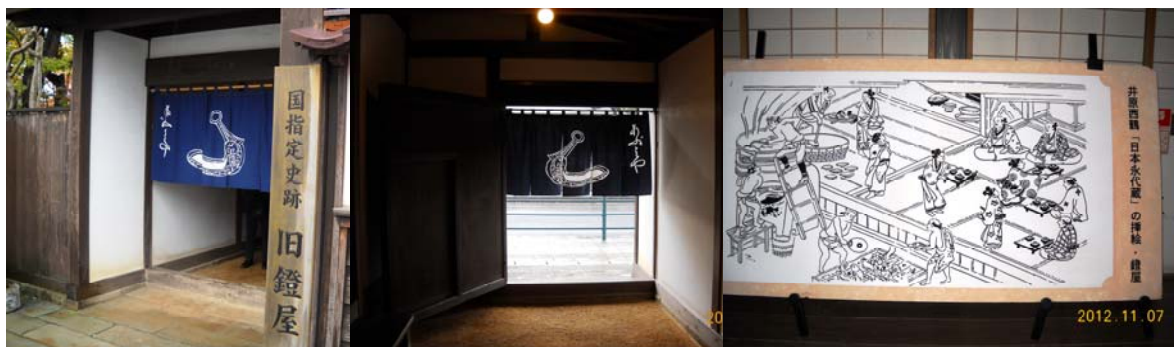


今日の昼食は、お待ちかね、超人気のさかた海鮮市場（飛島への定期船発着場）二階・海鮮どん屋 とびしまで舟盛膳(数量限定)です。実際、ネタは新鮮で安くて美味しく、整理券を配って行列をなす食事処でこの舟盛膳は売れ切れとなりました。一度ご賞味あれ！



【旧鑑屋】

酒田市役所の向かいにある旧鑑屋は、酒田を代表する廻船問屋で江戸時代を通じて繁栄し、また酒田三十六人衆として町政に重要な役割を果たしました。その繁栄振りは井原西鶴「日本永代蔵」に記されています。まだまだ酒田が続きますが次号で紹介いたします。



【文責・専務理事】